

卒業論文一覧（令和4年度）

—令和4年12月20日現在の卒論提出者ならびに
提出予定者—

麻生良文研究会

長谷川里沙 かかりつけ医制度の導入における医療資源配分の効率化

大串敦研究会

池田有佳子 18世紀における澳露女帝の教育改革の比較—エカチェリーナ2世とマリア・テレジアの政策から—

宇治 革 ウクライナ情勢に関する Twitter 投稿を基にした、メディア効果分析

大林誠治アンドレイ ソ連で長距離ジェット旅客機の開発が停滞した理由

可見 綾音 ソ連と日本の言語政策の共通点とその原因

佐藤亮太郎 コソボの独立とクリミアの分離における正当性の考察

チェファンソク 「ユーラシア連合構想」と「一帯一路構想」の統合の影響力について

平野 沙弥 生活インフラ供給政策の日ロ比較

藤本 美月 COVID-19ワクチンにおけるロシアのワクチン外交

眞下 好誠 東欧における地域協力の変容

箕浦量太郎 ロシア内民族共和国の権威主義化

ロックマン帆奈 中央アジアからロシアへの移民と統合の現状

大久保健晴研究会

阿久沢莉良 日本による台湾統治の特異性

東 大樹 「革命」のない日本—天皇万世一系がどのように守られたのか—

飯塚 理咲 近世東アジア国際秩序と琉球王国

金 多謙 日韓関係の構造的変容：日韓協定以降の関係悪化時における両国内要因の変化とその影響を中心に

伍賀 海人 日本の曖昧な「権力」と「責任」の関係について—昭和日本の国家構造を基に—

酒井 響 日本の女性像の変遷と良妻賢母思想

作田 美怜 近現代中国社会における「女性」と男女平等

塩崎 陸 三・一運動から見る韓国「反日」の原点

嶋 雛子 象徴天皇制と「日本の民主主義」の特殊性—法律学的観点と政治思想的観点から見る国民の象徴について—

首藤 摩耶 在日朝鮮・韓国人差別を通して見る日本の外国人意識

塚原 千智 グローバル化する韓国ドラマにおける慰安婦描写—ドラマ『내일（明日）』のシーンと視聴者の反応の分析—

藤本 司 明治維新の再解釈とその意義—従来の「革命」類型論からの脱却と「連続的な社会変化」—

- 堀田麻依子 盧武鉉政権—日韓関係を中心に—
山口 真由 五・四運動でみられる中国ナショナリズムの原点—清代から生じる日本との歪みをもとに—

大山耕輔研究会

- 石井 大輝 人的資源による効果的な自殺対策は何であるか
石本 万結 ケースワーカーにおける PSM とバーシアウトの関係
萬田 有紀 人口減少に対する連携中枢都市圏の効果
拙 友理 犯罪抑止に対する行政施策の効果

岡山裕研究会

- 高木洋太郎 アスリートによる政治的発言の変遷—レブロン・ジェームズの評伝—
田口 将也 アメリカの州知事による COVID-19パンデミック対応

小川原正道研究会

- 青砥 輝 西南戦争と「メディア」—当時の「メディア」報道から西南戦争の新たな「一面」を読み解く—
加藤 真唯 これからの更生保護—金原明善と原胤昭の取り組みから—
亀井 湧人 土方歳三の人物像形成の背景
黄檗 龍志 福沢諭吉の日本語表記論—西周との比較を通じて—
黒川 敬太 犬養毅の日中外交思想—理想に燃えた「中国通」の構想・政策と挫折—

笠井賢紀研究会

- 飯田壮一郎 原発事故避難者の避難先地域社会への定着過程—避難者交流サロンの活動分析から—
飯守光太郎 Uターン移住と地域社会—群馬県桐生市桐生地区での生活史調査を通じて—
今井 天音 恒久移住者の流入と多文化共生社会の形成—ベルリンにおけるトルコ移民を事例として—
岩浅 優花 家庭児童相談員の価値観形成過程
工藤みずき 地方出身の若者の進学・就職選択と地域移動—秋田県立本荘高等学校卒業者を事例として—
田原 暉大 移住者の視点からみる農山村への移住という選択についての研究—北海道土幌町を事例に考える—
平野安樹子 郷土教育の観点から見た都市祭礼—「長崎くんち」を事例に—
矢上 香帆 都市のコミュニティ形成の場としての住民参加型公園—二子玉川公園を事例として—
山村 豪 地域包括ケアシステムにおける民生委員の役割

粕谷祐子研究会

- 伊貝 優希 一党独裁体制ラオスとベトナムにおける議会と高速鉄道計画の進展
- 上野 美里 東南アジアにおける再生可能エネルギー政策について
- 鷗沢 美玖 ミャンマーと民主主義
- 倉田 英 制度改革前後における日本の首相の在任期間の規定要因の変容（仮）
- 小林 真子 民主平和論の事例検証 フォークランド紛争からの検討
- 清水裕希子 日米間における司法府の積極性の程度の差異について
- 野澤 美奈 外部支援者から見るモザンビークとルワンダの内戦再発要因について
- 橋本 京 平和構築における女性参加
- 原 みなみ カンボジア、東ティモールの移行期正義における成功と失敗
- 藤原 沙衣 民主主義の定着要因について—カンボジアと東ティモールの比較から—
- 増岡 忠洋 ラテンアメリカ諸国における FDI 変動要因
- 森貞 拓己 タイにおける政治の司法化
- 森本 浩輔 ヨーロッパにおけるシティズンシップ教育
- 山中 真菜 少数民族への自治権付与とナショナルアイデンティティの関係について—メキシコの事例より—
- 若井 真紀 民主化と言語政策—マイノリティ言語の扱いについて—
- 和田 宙 開発独裁国家の民主化条件
- 渡邊 夏蓮 インドにおけるソドミー法克服についての比較研究

烏谷昌幸研究会

- カンウサン 「ラジオ体操」の権力メカニズム分析から見る近代日本における新しい権力論—フーコーの権力論を中心に—
- 田尻 まみ SNSは思い込みを加速させるのか—スター・ストーカーにみるネット社会の影響—
- 近重 佑奈 「神待ち」からみる現代の若者の居場所論
- 寺田 礼那 新聞データベースの調査からみる「自己責任」の変容
- 当銀 祝七 メディアは死をどう扱うか—生前と死後の報道比較に基づく、死のメディア表象の検証—
- 花原 彩夏 社会記号を生み出す女性誌カルチャーの検討—『an・an』の分析を通じて—
- 本田 健人 孤独を見つめ直す—1人は寂しいことか—
- 松嶋 梨乃 「推し疲れ」のメカニズムからみる新しい推し活の提案
- 丸山浩太郎 メディア依存からの脱却—スポーツスポンサーシップの現状課題分析を通じて—
- 迎 俊輔 社会の勝手な解釈により、社会から批判された『巨人の星』
- 森川 智貴 若者のコミュニティはどこにあるのか—マッキーバーのコミュニティ論からみる現代のコミュニティ—

河野武司研究会

- 伊東 凜華 現代アメリカ選挙における選挙区割と公平性—ゲルマンダリングに関する考察—
- 金 美怜 韓国ドラマと対日イメージ形成
- 永井 一駿 政治広告事例の収集・分析
- 福西 崇生 高等学校における主権者教育の実態と今後の展望
- 藤巻 寛輝 欧州政治における反既成政党の躍進
- 森 葵 2022年参議院選挙でのSNS活用と選挙結果の関係性

小嶋華津子研究会

- 伊勢まり愛 ウクライナ危機に関連する中国対応のロシアでの評価 クリミア半島併合時とウクライナ軍事侵攻時を巡って
- 小沢 香央 中国における若年層失業の考察
- 嘉藤 寛太 中国におけるレアメタル管理体制の変遷
- 木下 桜 中国のWTO紛争解決手続き
- 新瀧 遼平 中国の対外援助と国際援助体制の相互影響
- 鈴木 梨里 イノベーション都市深圳の持続可能性—「緩さ」を焦点に—
- 津田 光咲 現代における日中環境交流の構造変化を捉える—ODAの出口戦略と日系企業の貢献を中心に—
- 長谷部真希 中国における女性問題の実態—「鎖の女性」事件をめぐる—
- 杉林 真央 衛星測位システム「北斗」の完成と国際社会
- 安江 健 アリババ規制から見えた中国市場経済の穴

澤井敦研究会

- 荒井 悠希 高校野球の魅力と弊害—甲子園という言葉の魔力—
- 牛久保匠海 管理された都市空間の中での下位文化の繁栄に向けて—ストリートダンサーが生み出すコミュニティに関して—
- 大野 理紗 「キャラ」の実態の再考—大学生にとっての陽キャ・陰キャの存在を踏まえて—
- 篠崎亜結乃 若者のおひとりさまに対する意識の変化の背景にあるものとは
- 島田 陸 MCUにみる現代アメリカ映画のポストモダンニティ
- 中野 恵太 孤独死問題は社会問題と言えるのか
- 平光 玲 ダンスバトルと趣味縁
- 松岡 実優 現代社会が生む有名人への監視・暴露とその対策
- 松山 陽南 SNSが若者にもたらす影響—サブアカウントをつくる若者たち—
- 宮崎 椋成 拡張し続けるポケモン・ワールドと終わりなき冒険—『ポケットモンスター』の社会現象—
- 八嶽みちる ミス・コンテストの歴史と現在—美への執着と資本主義—
- 山崎 駿 社会の加速化が人々にもたらす影響について—コンテンツ消費における「タイパ」の検討と今後の展望—
- 力丸 朋子 現代日本におけるルッキズムの変化とその解決策について

塩原良和研究会

- 池田茜、宮本七菜 子供達が表出する感情とその表出の条件—ふれあい館の体験から考察する—
- 池田みなみ、井浪大地、齋藤日菜子 居場所づくりにおける居心地の良さと定着度合いの連関
- 井上 雪菜 外国につながる子どもの高等教育進学をめぐる課題と可能性
- 永樂拓磨、北原美紗、中島彩奈、中橋萌香、松井萌々花 鶴見よる教室の共同エスノグラフィー—鶴見よる教室内の交流と居場所づくり—
- 行徳可南子、松井南帆 2022年県立川崎高校土曜日日本語教室の共同エスノグラフィー—成長の場所としての県川—
- 佐藤 理人 食たくを囲んで

田上雅徳研究会

- 岩崎 佑亮 ヒーロー像とヴィラン像—映画スーパーマンシリーズの変遷—
- 金子茉莉佳 アメリカの人工妊娠中絶をめぐる基本的人権の保障する主体の変化とその危険性
- 田卷倫太郎 寛容論とアメリカの行く末
- 土屋 優里 アメリカ大統領の象徴的機能とロナルド・レーガン
- 土井 翔太 マッカーシズムからみる大衆煽動とテレビ産業の負の相関
- 中村 滉 偶像は宗教の代替物となり得るか
- 三輪亮太郎 環境問題をめぐる市民的連帯—SDGsは『世界市民宗教』に貢献し得るか?—
- 山内康太郎 人間の欲動と戦争及び対立について—原因から救済まで—
- 渡辺みなみ 近世日本における殉教が当時の指導者に与えた影響

玉井清研究会

- 白石 優生 戦時下における「洋装」文化への即応と抵抗—服飾雑誌『装苑』を通じて—
- 豊田 竜平 非政党内閣期における政友会内の実相—「国政—新論叢を通じて」—
- 山中 惇敏 戦前期日本における内閣書記官長の研究—第1次加藤高明内閣書記官長・江木翼を中心に—

築山宏樹研究会

- 飯淵 尚哉 野党の立法活動は有権者の政党支持にどう影響するか
- 大川 楓歌 学校のデジタル教育資源が教師のICT自己効力感に及ぼす影響—ICILS2018に基づく実証分析—
- 大矢 健太 地方自治体における自殺対策事業の効果分析
- 岡田 希美 子宮頸がん検診の促進要因
- 勝尾 優大 日本企業の早期離職の要因分析—企業パネルデータを用いた実証分析—
- 上妻 加奈 野党の離合集散は有権者の政治的態度に変化をもたらすのか

- 小林 翔 二酸化炭素回収・貯留技術 (CCS) 導入を促進する政策・法制度は何か
- 志田万由子 水道事業における民間活用の効果分析
- 島尾 桐太 自治体の地理的条件に応じたコンパクトシティ構造の探究—多極型・一元型モデルの比較分析—
- 清水 俊英 米国連邦議会における半導体業界のロビイングの実証分析—半導体法案 (H.R.4346) に対する点呼投票の事例から—
- 田北 雛子 道路空間のウォークアビリティ並びにプレイス機能と地域の経済的活力の関連—OpenStreetMap データに基づく COVID-19パンデミック前後の比較分析—
- 中澤 康紀 高齢者の自尊感情低下を緩和するのは対人関係の量か質か—全国高齢者パネル調査を用いた実証分析—
- 松永 徹生 長期政権は汚職の増加をもたらすのか—国際比較データを用いた実証分析—
- 山田 優奈 地方自治体における女性の記述的代表と子育て政策の関連

堤林剣研究会

- 伊藤 杏菜 韓国ポップ文化について
- 遠藤 彩華 ローザ・ルクセンブルクと国民経済
- 大館 千樹 主権者教育と投票行動
- 鹿山 亮 日本における e-sports の現状と発展性
- 熊谷 堯也 国際政治における日本のプレゼンスの低下について
- 嶋内 崇介 スポーツの普及とメディアの関係性について
- 高木 碧 国際関係が音楽界に与える影響—ロシアのウクライナ侵攻問題を受けて—
- 田坂 真聖 タリバンによるアフガニスタン支配
- 津田 智大 選挙におけるタレント候補の是非
- 富樫 玲佳 多元化する現代社会に生きる若者に対するマンガやアニメの可能性について
- 長澤 奈央 ジェンダー平等に向けた道筋とは—宝塚歌劇団およびドヌーヴ書簡から考える—
- 西村 未八 ベーシックインカムの実現可否について
- 西山 愛莉 チームスポーツにおける組織づくりと企業への発展—モチベーションの源泉とアウトプットの最大化—
- 藤田 怜也 日本国民の共同体意識の研究
- 二見 海地 「時間」という概念について
- 松田 昂士 反・暴力としての芸術が持つ可能性—反戦芸術・市民的不服従及び「文化産業」—
- 松本 仁成 価値相対主義の批判的再考
- 水谷 真盛 イギリス・マーガレットサッチャー政権下においてもたらされた社会的影響

- 茂木 佑葉 多様性が渦巻く現代社会の中で安定したアイデンティティ形成は可能か
- 森谷日向子 現代社会の「デモクラシー」再考—トクヴィルのデモクラシー論を中心に—
- 山口 哲太 企業文化について

錦田愛子研究会

- 笠井 真琴 仮放免者の労働力登用—埼玉県川口市の事例から—
- 木田 賢吾 シンガポールから学ぶ移民政策
- 新城 墨斗 在日外国人の労働力の可能性について
- 杉山 晴夏 日本における在留外国人の社会統合について
- 竹内 麗織 ドイツから学ぶ移民政策
- 塚挟 真紀 在留外国人女性の医療課題解決—コミュニケーションの視点から—
- 東流 ななみ 受入国における移民難民女性を取り巻く現状
- 沼田 凜丸 スポーツと多文化共生—スポーツコミュニティが果たす役割—
- 藤田 快人 NFLと人種差別
- 古川 絃平 日本における外国籍児の母国語教育環境
- 寶正 雄吾 日本における外国人留学生の労働環境について
- 吉田 温志 外国人労働者問題の解決に向けて

西野純也研究会

- 井上 夏樹 金正恩の肩書きの変遷「総書記」の復活にみる北朝鮮国内政治
- 牛嶋 友誠 日本の能力構築支援の多面的成果と課題—現地能力向上に留まらない成果と量的支援・新領域展開の遅れ—
- 大島 諒也 海上保安庁の変化要因の考察—中国海警局の台頭と海警法の施行による影響について—
- 大南 祐貴 韓国の対日直接投資—投資事例と韓国対外直接投資から見る—
- 黒丸 碧 文化と政治は分けて考える現代大学生：韓国コンテンツが日韓外交政治印象に与える影響について
- 小関 晴香 南シナ海における『中国の台頭』とフィリピンの対応—アキノ、ドゥテルテ、マルコス政権を通じて見るフィリピンの揺れ動く対中政策—
- 芹川 宏太 第2次安倍政権の外交・安全保障政策が安定的だったのはなぜか
- 宮本恵里花 ニュージャージー州の韓国系アメリカ人が与える国家関係への影響—アジア系アメリカ人についての歴史教育から考察する—

細谷雄一研究会

- 石野 凌 第二次大戦中・冷戦時におけるアメリカ合衆国のプロパガンダ政策とハリウッド業界の関係について
- 江頭龍士郎 宇宙条約第四条の成立過程—歴代米政権の宇宙軍備管理政策の検討—
- 岡 恵吾 フランシス・フクヤマの外交思想—『歴史の終わり』の延長線上にある「現実主義的ウィルソン主義」—

- 加藤 諒祐 第三次中東戦争をめぐるド・ゴール大統領の外交政策—対米関係の視点から—
- 金堀 賢 アメリカ海軍にとってのワシントン会議—対日認識の変容に焦点を当てて—
- 北 真緒奈 タレーランとカレーム—ウィーン会議における文化と外交—
- 久場川 傳 「帝国」陸軍の敗戦—支那派遣軍における武装解除問題を中心に—
- 坂爪 莉子 福澤諭吉の近代化思想と東アジア—脱亜論から見る朝鮮半島認識—
- 佐藤 千夏 東亜新秩序および大東亜共栄圏の形成過程における外務省の役割
- 島崎 仁誠 昭和天皇訪米と戦後日米和解
- 出頭 愛斗 ロシアの第一次世界大戦参入過程の考察—大国意識と汎スラヴ主義の影響を軸に—
- 鈴木 雅人 日本と帝国医療—植民地台湾の保健衛生政策に注目して—
- 角田 玲子 ODAと人間の安全保障—2003年大綱改定に注目して—
- 染矢 奈樹 矢部貞治の国際秩序観—論文「帝国主義の経済的考察」を起点として—
- 高木 美玖 20世紀初頭から第一次世界大戦直後におけるイギリスの石油外交—メソポタミア石油利権をめぐる英仏交渉—
- 榎本真輝子 パチカン市国の平和外交—国際社会へ影響を与えるソフト・パワー外交の底力—
- 徳能 祐嘉 ジョージ・F・ケナンの民主主義観—『アメリカ外交50年』を中心に—
- 中村颯一郎 パリ講和会議における牧野伸顕の外交観
- 野里 夏彩 パリ不戦条約の成立過程—レヴィンソンを中心として—
- 樋口 浩太 アンソニー・イーデンとスエズ侵攻の決定について—政策決定の合理性・非合理性—
- 三宅 竜雅 ハリファックス外相と対独宥和政策—宥和政策に対する姿勢の変化を中心に—
- 矢部 美咲 ブラント政権の東方政策の多義性—モスクワ条約交渉過程におけるアラルト大使・シェール外相に注目して—
- 山田 真優 ヴィルヘルム2世とニコライ2世—第一次世界大戦開戦における「ウィリー=ニッキー電報」の影響—
- 吉池 美佳 ブラント政権下におけるオーダー=ナイセ戦承認—被追放民組織との関係を中心に—
- 李 本立 カイロ宣言の発表と第二次世界大戦時の米中関係

松浦淳介研究会

- 浅野 孝太 地上波テレビ各局報道の比較—安倍晋三銃撃事件当日を事例に—
- 市川 大輝 自民党政権における閣僚・党役員人事と首相の人事権
- 太田 優和 国対幹部の人事分析
- 寺下 香都 京都市の財政危機と財政再建の分析
- 豊田 真也 内閣人事局設置後の府省幹部人事
- 林 ことみ 自民党郵政族の影響力分析—郵政民営化を例として—

- 村田 拓真 地域政党発祥の政党と国政政党の政策比較
 山口 遥輝 開成町における投票行動メカニズム
 吉村 まほ 公立高等学校における民官連携の実態—「地域学校協働本部」・「コミュニティ・スクール」と企業の教育参画の関係性—

宮岡勲研究会

- 伊藤 香穂 日米同盟の制度化の進展—新冷戦期、ポスト冷戦期を事例として—
 加藤悠太郎 経済制裁の成否要因—北朝鮮制裁とイラン制裁を中心に—
 島村 義広 大日本帝国陸海軍の関係悪化とその要因—日清・日露戦争による影響の検討—
 清水 理沙 バール構想後の西ドイツ外交とドイツ統一—シュミット政権とコール政権を中心に—
 崔 祐栄 オーストラリア政府における対中政策の変化要因—2007年～2022年を中心として—
 乃坂 龍誠 戦争終結に見る国連決議の重要性—湾岸戦争とイラク戦争を中心に—
 飛田 祐輔 第4次防衛力整備計画の策定主体—中曾根、西村両長官を中心に—
 檜山 祐一 米国の国際秩序構想の変化に伴う安全保障戦略の傾向—オバマ政権からバイデン政権の同盟政策を比較して—
 吉村 悠 独裁者による戦争開始の決定—アフガニスタン侵攻と朝鮮戦争を事例として—

山腰修三研究会

- 五十嵐 歩 日本における選挙候補者のマーケティングと Twitter の活用
 後藤 龍星 Twitter の諸機能が有する認知・行動規定という「不可視の権力性」—「いいね!」機能が誘発する感情の歪みと拡張、そしてその意味づけ—
 塚谷 萌衣 マスメディアの文脈におけるシンボルとしての「多文化共生」—外国人の呼称をめぐるフレーム分析—
 早瀬 圭人 若者はなぜ自民党に投票するのか
 吉田 怜生 日本政治における Twitter とハッシュタグの役割